

令和2年度 「障害者週間のポスター」優秀賞作品

小学生区分



「ぼくにもできるよ。お席をどうぞ」

ふくい はるき
福井 晴基

愛知県 常滑市立常滑東小学校(2年)

【作者コメント(作品で表現したかった内容、作品テーマ)】
ヘルプマークの理解が広がり、目には見えない障がいがあることが伝わってほしい。

中学生区分



「美しく輝いて」

おくだ すずよ
奥田 涼世

香川県 綾川町立綾南中学校(3年)

【作者コメント(作品で表現したかった内容、作品テーマ)】
背景の明るい色・光で、目標を持ち努力する人々が輝いている様子を表現した。全ての人々が協力し合い目標を持ち叶えてほしい。

令和2年度 「心の輪を広げる体験作文」最優秀賞作品

心の輪を広げる体験作文 審査講評 令和2年度「心の輪を広げる体験作文」審査委員会委員長 三田 誠広

小学生区分

「知ること、それが第一歩」

よしこし ほたか 富山県
吉越 帆高 富山市立堀川小学校(6年)

重い障害を負って歩行器や車椅子で生活している少年が、小学校に通学するようになって、健常者の子どもたちと交流する過程が描かれている。気後れや途惑いもある中で、周囲の子どもたちの支えによって、心が開かれていくさまが読者の胸を打つ。タイトルに示されている一つの間観が、まさに「心の輪を広げる」第一歩だと気づかされる。

中学生区分

「友達として」

ひだ あいね 仙台市
飛田 愛音 仙台市立南中山中学校(3年)

健常者の少女が一歳年下の障害者と交流する話で、最初は相手を障害者の女の子と思っていた先入観がしだいに払拭され、相手との間にあった壁がなくなって、ただの友達としてつきあえるようになっていく。これも「心の輪を広げる」ための重要な過程だと感じさせる見事な作品になっている。

高校生区分

「金さんへの誓い」

のぶ やすよ 広島県
延 泰世 盈進高等学校(1年)

ハンセン病の後遺症で障害を負った金さんという人物との交流が描かれている。いわれのない偏見にさらされたこの病の患者として、差別に屈することなく、社会を恨むわけでもなく、人を愛し人から愛されて九十歳まで生き抜いたこの人物の生き方への感動が素直に語られている。

一般区分

「ワタシノイチブニナリユクソイツ」

やまざき まさる 新潟県
山崎 大 無職

ある種の精神障害の過程が本人の感覚によって克明に描かれている作品で、自分ではコントロールできない「ソイツ」と呼ばれる何かと闘い克服するのではなく、「ソイツ」と共存していくことで病が緩和されることに気づく。わたしたちがこの種の病を理解する上で、大事なことがここに書かれているように思われる。